日本映像学会メディアアート研究会企画：メディアと映像展示

反射するリアリティ展

会期：2024年9月20日（金）ー10月5日（土）
木・金・土曜・開館　12:00ー17:00
場所：愛知県立芸術大学芸術資料館　入場無料

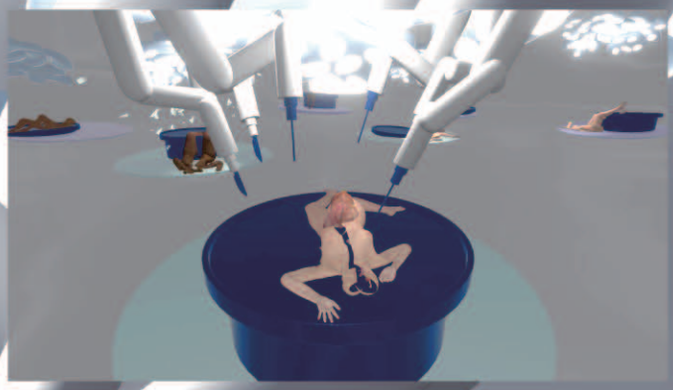
展示作家：宇佐美 奈緒
真鍋 大度＋石橋 素
DTG［大泉 和文＋加藤 良将］
村上 泰介
関口 敦仁

日本映像学会メディアアート研究会：講演

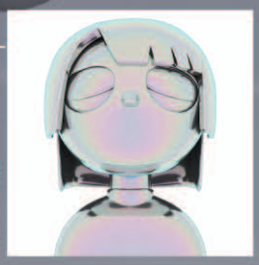
「ビデオゲームの身体感覚と3DCGの皮膚感覚」

講演：宇佐美 奈緒
日時：2024年10月5日（土）14：00〜16：00　（質疑応答時間含む）
場所：愛知県立芸術大学芸術資料館演習室　入場無料

問い合わせ先：メディア映像インフォメーション TEL. 0561-76-3027



宇佐美 奈緒（うさみ なお）
アーティスト。3DCG技術を用いたビデオゲームの開発を続けている。ビデオゲームにおける可能性の1つである他者や他物の視点を追体験できることに関心がある。また、インターフェースの歴史と身体の関係性を探求している。
東京藝術大学映像研究科メディア映像専攻修了。「Prix Ars Electronica 2024」Honorary Mention 受賞。主な展覧会に「Digital Art Festival Taipei 2023」。



DTG　大泉和文（中京大学工学部）加藤良将（名古屋芸術大学）
2018 年結成。Maker Fair Ogaki 2018、Campus Exhibition ARS ELECTRONICA Festival 2019 などで発表。

大泉和文（おおいずみ かずふみ）
1993 年、筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了、博士（メディア科学）。《可動橋》シリーズなどインスタレーション作品を制作し、個展（Standing Pine，2020 年）、国際芸術祭「あいち 2022」、神戸ビエンナーレ 2007 などで発表してきた。物体が動くリアリズムの体現と物理的な身体性を意図し、現代美術の一領域としての位置づけを目指している。

加藤良将（かとう よしまさ）
2006 年、中京大学大学院修士課程情報科学研究科修了。「White Lives on Speaker」Ars electronica Prix Ars 2007 Honorary mention 受賞、LED と光ファイバーを用いた「Rokuro」シリーズなど、電子デバイスとプログラミングを用いたインタラクティブ作品を制作している。

交通案内：

●名古屋方面から
地下鉄東山線
「藤が丘」駅下車
東部丘陵線（リニモ）
「芸大通」駅
下車徒歩約１０分

●豊田・瀬戸方面から
愛知環状鉄道
「八草」駅下車、
東部丘陵線（リニモ）
「芸大通」駅
下車徒歩約１０分

愛知県立芸術大学　愛知県長久手市岩作三ケ峯 1–114
「反射するリアリティ展」問い合わせ先：
愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-4698

真鍋大度+石橋素（まなべ だいと+いしばし もとい）

真鍋大度（まなべ だいと）
ライゾマティクス主宰。1976 年東京都生まれ。アーティスト、インタラクションデザイナー、プログラマ、DJ。東京理科大学数学科、国際情報科学技術アカデミー（IAMAS）卒。
2006 年株式会社ライゾマティクス設立。身近な現象や素材を異なる目線で捉え直し、組み合わせることで作品を制作。アナログとデジタル、リアルとバーチャルの関係性、境界線に着目し、デザイン、アート、エンターテイメントの領域で活動している。

石橋素（いしばし もとい）
ライゾマティクス主宰。1975 年静岡県生まれ。エンジニア／アーティスト。東京工業大学制御システム工学科、国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）卒。デバイス制作を主軸に、数多くの広告プロジェクトやアート作品制作、ワークショップ、ミュージックビデオ制作など精力的に活動を行う。2023 年より愛知県立芸術大学特任教授兼務。

村上泰介（むらかみ たいすけ）
愛知淑徳大学創造表現学部教授。1999 年 IAMAS 修了、Media Master 取得。MR システム研究所にて拡張現実感技術による作品 Contact Water を制作、2002 年第 5 回文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞。発達障害の聴覚経験を追体験する装置「Ear Ball for Empathy」制作（2011-2015 年）、Jardin Japonais、Paris、UNESCO Creative Cities Network などで発表。大学研究室では、・児童と遊びへのメディアアート的アプローチ・自閉症スペクトラムの世界を追体験するメディアテクノロジーの研究・VR 技術を活用した環世界の構築など、メディアテクノロジーと芸術についての研究と制作を進めている。

関口敦仁（せきぐち あつひと）
美術作家、愛知県立芸術大学特任教授、名誉教授。メディアインスタレーションを中心とした作家活動を行う。「Conected Re-Body」、「景観シリーズ」、「ArmExistance シリーズ」「仮想内観」など、自己の身体知覚と場所性をテーマにした作品の発表や地理情報を活用した歴史情報コンテンツの研究などを行っている。Campus Exhibition ARS ELECTRONICA Festival 2019 で企画・発表。